

潮騒

地域が誇る農地を後世に

温暖な気候や豊川用水の恵み、そして先人たちの努力により全国有数の規模を誇るまでに発展を遂げた田原市の農業。しかし、近年は農業形態の変化や後継者問題など、さまざまな要因で耕作が放棄される農地も少なくありません。現在、国内の食料自給率は40%まで落ち込み、将来は世界的な食糧危機も予想されています。こうした社会情勢の中、地域の宝であり、生命の源となる「農地」を健全な形で維持し、次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか、共に考えてみませんか？



遊休農地に咲くコスモス(神戸町)

CONTENTS

目次

- 特集「開墾耕地を求めて」..... P.1~4
 表浜むかし話「ほうべの井戸」.....P.5
 協議会の活動報告 平成17年度事業計画.....P.6
 〔地域のボランティア活動者〕きれいな表浜を守りたい など.....P.7

「潮騒」は、平成8年に神戸・大草・六連・東部4校区の住民が主体となり発足した「田原市太平洋岸総合整備促進協議会」が発行する情報誌です。協議会では、表浜海岸の侵食や農地荒廃などの問題に対応し、地域の総合的な整備促進に向けた活動を行っています。(詳細は6頁)

みなさんは、実り多き畑を求め、生まれ故郷を後にした人々の話をご存知ですか。
 大正・昭和の始め、農村の不況により、人々は収穫豊かな畑、そして自立した暮らしを求めするために、自ら考え決断し、そして行動することで今の農業を築き上げました。
 私たちは今、何を目標に何を求め行動していますか。
 これから問われるのは、現在の状況を打開する行動だと思います。

開墾耕地を求めて

むつれ とみやま
 ~ 田原市六連町富山地区 ~

新たな決断

昭和初期、北設楽郡富山村の産業は、林業や炭焼き、養蚕などで現金収入はとて
 も少なく、日々の暮らしはとても貧しい状況でした。そのため、愛知県農会^{*1}は農山村振興
 事業の一環として北設楽郡富山村の分村移住を計画し、満州への開墾要請^{*2}を断って、
 昭和10年2月20日、富山村農会技術員(佐藤一夫氏)の引率により11名(世帯)^{*3}が
 渥美郡杉山村に移住するに至りました。

移住の意志を固めた者は、新規開墾農地に希望を寄
 せる者、乳飲み子を抱え安住の暮らしを求める者のほか、“富
 山村を捨てる”という気持ちの者もあり、決して安易な気持
 ちで移住を決めた訳ではありませんでした。

- *1 昭和初期、農業の改良発達を図ることを目的にした法人で昭和18年9月15日に廃止・解散
- *2 移住した方の氏名は慰霊碑に刻まれています(当時の北設楽郡富山村から11世帯・田原町芦村から1世帯)
- *3 現在の田原市六連町内



熊谷 勲一さん
 (六連町・農業)



移住先の暮らし

移住した時、この地は小松と笹に覆われた赤土の荒地でした。元々、太平洋岸は乏水性の台地で耕作に適さない不毛な地であったため、地元^{*1}の村民は漁業と養蚕を営み農業を主とする者は数少ない状況でした。

移住した者は、空き家や集会所、弥栄地区や六連小学校教員住宅などで共同生活を送り、愛知県指導員(中嶋正太郎氏)の営農指導のもと、荒地に鋤を入れ約33haの開墾を始めました。

当時の開墾はすべて人力で、道具も鋤のみでした。朝は夜明け前から、夜は星を見ながら重い鋤を振り上げ、365日休む間もなく働き、荒地を耕し瘦地に肥料をまく労働は言葉以上の苦勞を重ねました。苦勞の末、第一作としてスイカの栽培に取り掛かり、その後にはエンドウ、さつまい、ダイコンや麦などが作れる農地を作り上げることができました。



富山の開墾者とその家族(昭和12年頃)

*1 六連町弥栄(やさか)地区

六連町弥栄地区は、富山地区の入植を遡ること約4年前に10世帯が入植し、昭和6年12月4日から開墾事業に着手された地区で、富山地区以上の苦難の道を行って参りました。この地区は、富山地区の方たちが入植した際、生活を共にして彼らを勇気付けたり相談に応じたりするなど、献身的なもてなしがあったようです。

また、弥栄地区で農業を営み、成功を収められたからこそ、引き続き富山地区に入植することができたと言っても過言ではありません。

富山地区の開墾範囲(33ha)



過去の語り部



山上 好さん
(六連町・農業)

山上さんは、18歳の時、水に乏しい富山地区を知った上で嫁いで来られた方で、当時の暮らしを女性の見方で教えていただきました。そして今では、当時の暮らしを六連小学校の児童たちにも語り継いでいる方の一人です。

降りかかる苦難

太平洋岸地域は、典型的な天水依存の地域であったため、生活水の確保には困窮していました。

幾つかの地区では井戸を掘り、富山地区でも井戸を掘りましたが、この地区の地形では井戸を掘っても泥水が少し出るだけで、この取り組みは失敗に終わりました。

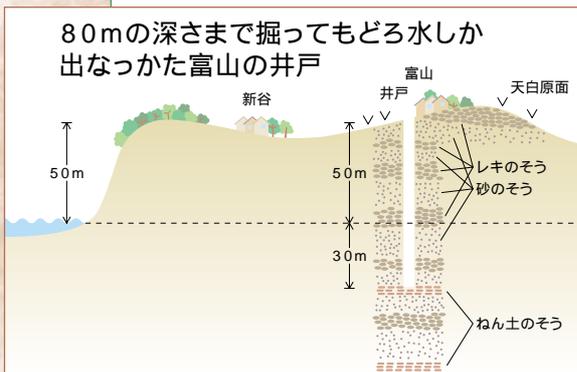
昭和12年頃から日本と中国が争い始め、そして日本と米国が太平洋戦争に突入り、富山地区に入植した者の中から9名の男衆が戦地に招集され、人手不足により作業能率が大幅に下がりましたが、相互扶助の精神で苦境を乗り越えてきました。

富山村から移住して70年の歳月が経過しました。今日では、豊川用水が通水したこと、また、農村総合整備事業の推進によって太平洋岸

の地域は全国に誇ることのできる実り豊かな地域に変貌しています。

*1 農業の生産に関連する集落内の道路や水路、下水処理施設など生活環境の整備を行うもので、ほ場整備や農道、用排水路などの整備と合わせて行う事業

80mの深さまで掘ってもどろ水しか出なかった富山の井戸



六連町を貫く豊川用水路



富山地区慰霊碑



出典 1)熊谷勲一氏(六連町)手記より 2)故山上百亀氏(六連町)『生活記録』「赤褐色の瘦地に挑みて」より 3)田原町土地改良区20年の歩み

過去の貯水タンク

現存する*タタキ(田中幸雄さん宅)
*石灰をたたいて固めた雨水を溜める貯水槽



昭和20年代後半まで、生活水を確保する貯水槽として利用していましたが、現在は庭木の散水用として活用しています。

現在の貯水タンク

上水用1万トンPCタンク(六連町)



県水を受水・配水する目的で昭和54年から供用開始され、市民1人当たりの日平均使用量350ℓの生活水約2万8,000人分を貯水しています。

豊川用水事業

豊川用水事業は、昭和24年から昭和43年までの間、愛知県東南部の平野や渥美半島、静岡県湖西市の地域に農業用水・工業用水・水道用水を供給するために事業が進められ、田原市は昭和43年5月に通水を開始しています。太平洋岸地域の農業は、この豊川通水以後、飛躍的な発展を遂げ全国トップクラスの農業生産額を支える地域になっています。

豊川用水事業・豊川総合用水事業については、「潮騒 2」に詳しく掲載していますので、ご覧ください。

なお、現在の太平洋岸地域が豊川用水の恩恵を受けている受益地は、約1,120ha^{*1}(市の約60%を占める)に拡大し、豊川用水支線水路の整備により安定した農業用水を受けられる状態にあります。

*1 田原市田原地区での推計値(田原町土地改良区資料)

畑に水を撒くスプリンクラー



キャベツの苗付け作業をする
荻原光政(直彦)さんご家族
(六連町富山地区)



8月10日に植え付けられ、水の恵みによって成長するキャベツ



農業を取り巻く課題を農家の皆さんに聞きました

農業に課せられた問題^{*1} 耕作放棄地・遊休農地の解消へ

現在の農業は兼業化が進み、若い労働力の他産業への流出や、農業従事者の高齢化、更には担い手不足の状態に陥っています。新規の土地改良事業を進めるにも、積極的な営農計画を持った農業経営者は自己負担において積極的な考えを持つ者もいますが、兼業農家は農業外収入で家計の安定を得ている農家も多く、収入の少ない農地に対しては消極的な考えを持っているように感じます。また、田原市には多くの遊休農地があると聞きますが、農業を取り巻く問題は、活かされていない農地を有効に利用すること、合理的な活用などを検討し後世に引き継ぐことにあると考えます。

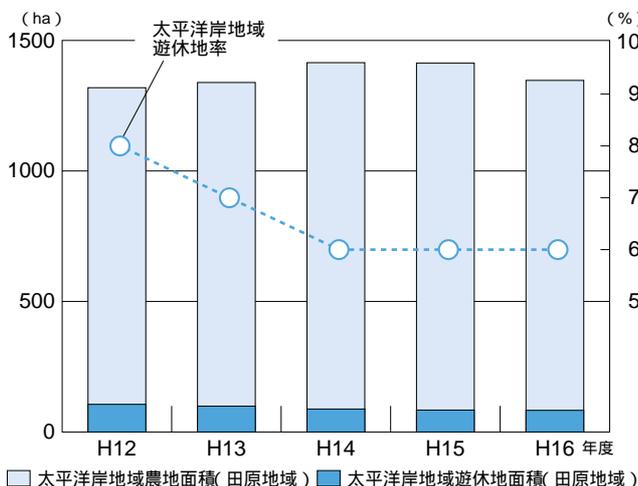


井筒 進一さん

(南神戸町谷ノ口地区・農業)

*1 耕作放棄地・遊休農地 / 耕作放棄地や遊休農地は、以前農地であったもので過去1年間以上作物を栽培しない状態や、この数年の間に再び耕作する明確な意志のない農地のことを言います。

農地面積に対する遊休農地の割合(データは合併前のものです)



年度	太平洋岸地域(東部・神戸・大草・六連校区)		
	農地面積	遊休地面積	遊休地率
12	1,319ha	106ha	8%
13	1,339ha	99ha	7%
14	1,415ha	88ha	6%
15	1,413ha	84ha	6%
16	1,347ha	83ha	6%

出典 遊休農地調査地区別集計表(市農政課資料)
農地地籍集計表(市税務課資料)
土地に関する統計年報(H12~15田原町・赤羽根町合算値)
2000年農林業センサス・データ(市街化区域・市街化調整区域合算値)
平成16年度田原市農業委員会調査データ(市街化調整区域)

語り継がれる 開墾の歴史

六連小学校の学芸会では、平成8年から富山地区の水をテーマとした演劇「荒地に水を」が上演されています。子どもたちが、地域の歴史や昔の人の苦勞・努力を学び、人々に伝えていく、素晴らしい郷土劇です。

子どもたちの疑問

スイカを栽培し始めたのは、なぜ？

- ・スイカの栽培は、昭和12年頃から始まりました。スイカは、畑に作る畝数が少なく、掘り起こす作業負担が少なくて良かったからです。また、土質に合っていたこともその理由の一つです。

*1 畑の土を細長く盛り上げ作物を植え付けるところ

開墾に取り組んだ最初の作業は何？

- ・牛車が通る道 現在の農道 を造ることから始めました。ただ水の乏しいこの地域は農耕牛を飼うこともできず、鍬だけで道を造っていました。



富山地区の水をテーマにした六連小学校の演劇「荒地に水を」
(写真提供)六連小学校

遊休農地に 対する取り組み



設楽町津具地区にプレゼントされた菜の花

農業委員会では、農家との共同作業による遊休農地対策が進められています。平成元年から行われていた調査を基に、平成13年度に谷熊地区をモデル地区として遊休農地の解消が図られたほか、平成12年度からは、農家の賛同を得て遊休農地の菜の花畑化事業に取り組んできました。平成15年度には「菜の花エコプロジェクト」として、市が取り組む環境共生まちづくり「エコ・ガーデンシティ構想」の主要プロジェクトに位置づけられ、遊休農地の解消、景観の向上、菜種油の有効活用(食用化 廃油燃料化)などで、循環型社会の構築を目指しています。また、姉妹都市・津具村(現設楽町津具地区)や友好都市・長野県宮田村に菜の花をプレゼントするなど、人と人、人と未来をつなぐ取り組みとして広がりを見せています。

私の農業



(左)大澤 仁美さん
(中)西山 美幸さん
(右)中村たみ子さん

先人の想いを後世に

西山 美幸さん
(六連町・農業)

水は地球上に存在する全ての源だと思います。今まで、私は水が供給されない生活を考えたことがありません。むしろ考えることができないというのが正直です。先人たちは、この水のない地で私たちの想像を超えた苦難の末、広大な農地を後世に引き継いでくれました。私たちは、この大切な農地を新たな世代に引き継ぐ担い手として、農業に対して謙虚に、そして真剣に考え取り組んでいかなければならないと思います。

編集委員会から
お知らせ



愛・地球博を飾ったコスモス

みなさん、愛・地球博の会場で色鮮やかなコスモスを見た記憶がありますか。では、皇太子殿下や小泉総理大臣が列席した閉幕式を思い出してください。ステージを囲むように「コスモス」が飾られていたと思いますが、実はこのコスモス、西山さん一家が栽培したコスモスです。博覧会協会の依頼により今年5月～9月まで、愛・地球博を彩で飾るため、約1万5千鉢のコスモスが出荷されました。

「ほうべの井戸」

山田もと

遠州灘にそって、赤土の崖が渥美半島の先から静岡県境まで続いています。この赤土の崖を土地の人は“ほうべ”と呼んでいます。

このほうべは、高いところは百メートルもあり、ひだのように引っ込んで谷になり、飛び出して赤土の山を作ったりしながら、雨や風、波にさらされて、だんだん崩されています。

田原町大草、半身のほうべに、井戸谷^{いどや}という谷がありました。この辺りは水がなくて、大方の家で雨水を使っていました。ほうべの松林をくぐり抜ける細いけもの道を50m下ったところに、いつのころ掘られたか分らない昔からの井戸がありました。

いつも澄み切った水がこんこんと湧いていました。砂浜に近いのに塩からくもなく、どんな日照りにても水が干上がったことはありませんでした。半身の人たちは、雨水をためた樋がめの水が無くなると、この井戸の水を汲んで、いないあげて使っていました。「どっこいしょ、どっこいしょ。」「ああ、えらい、えらい。」などと言いながら急な坂を担いで運びました。

昭和のはじめ頃、この井戸谷に、およしさというおばあさんが住みついていました。どこから来たのか、身よりの人も居るのか居ないのかも分かりませんが、浜の人が網を掛けたこぼれ魚をもらったり、その魚で煮干しを作って田原の市まで売りに行ったりもしていました。

がっしりした体、手も顔も潮風にやけて赤黒く

(お断り)

潮騒 6まで「表浜の昔話」の執筆者でありました山田もとは、平成16年9月にご逝去されましたが、表浜地域で生まれ、実体験を通した心温まる実話は多くの皆さんに心豊かな安らぎ



【現在の井戸谷】

簡易水道の名残(手前)と埋まってしまった井戸(奥)

なっていました。不自由な足で、田原の町までゆっくり、ゆっくり歩いていました。ぼさぼさの髪、汚れた着物は柄も分らず、ただまっ黒に見えました。戦時中に亡くなつたらしいです。

戦後、半身の人たちはここを水源にして、簡易水道を造りました。じじじー、がったんがったん、だれもない松林の奥で、波の音とともに夜も昼も、機械はいつも働いていました。豊川用水が通り、この簡易水道の機械も止ってしまい、井戸をかえりみる人もいなくなりました。

およしさのことも忘れられていきましたが、このほうべの谷のことを、今でも井戸谷と呼んでいます。

を与您に提供しています。私ども編集事務局がこの旨をお話したところ、ご遺族の皆様が快くご理解いただきましたので、今後も山田さんの遺作を紹介させていただきます。

「みんなで考え・行動する地域づくり」が

田原市太平洋岸総合整備促進協議会の活動姿勢です。

市町村合併という大きな転換期を迎える中で、地域は地方分権の意味を理解し、自らの地域における個性を明確にした地域づくりを迫られています。このような状況下、本協議会是一人一人の問題意識を喚起するとともに、広い視野から当地域のあり方や太平洋岸地域の地力を改めて考えることが必要性だと感じています。当地域の活性化のためには様々な課題について、共通の認識を持つことを原点とし、私たち自らが新しいまちづくりを創造する英知と実践力と合わせ、実情に即した総合的な取り組みが迫られている状態にあると言えます。私たちは意欲的で自主的な地域づくり活動の基盤を形成するため、各校区が共に連携し総参加の地域づくり推進に努めたいと思います。

田原市太平洋岸総合整備促進協議会 会長 **田中義道**

協議会活動の経過

H8.1...協議会発足 H8.3 沿岸部に関する地元要望作成
 H9.3...基本構想「サングリーン21」策定
 方向性 ・自然環境の保全と活用 ・農業基盤、農村環境の整備
 ・観光・レクリエーション施設の整備 ・幹線道路の整備
 展 開 ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
 ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
 ・渥美半島全体の連絡調整
 ・関係機関への要望運動等の展開
 H9.11...専門部会設置 H10.3 海浜・崖森エリアの基本計画策定
 H10.10 農地エリア整備の地元検討書作成
 H10.11...第1回表浜自然ふれあいフェスティバル開催
 以降(H11.10第2回) X H12.11第3回 X H13.10第4回 X H14.11第5回)
 H14.9...環境保全啓発看板の設置
 ・大草海岸を始め6箇所の海岸に設置
 H14.11...海浜拠点整備地区の選定(谷ノ口地区)
 H15.3...ええZONEガーデン整備計画策定(谷ノ口総合整備促進協議会)
 H16.7~ 国土交通省事業-地域振興アドバイザーを受け入れ
 (谷ノ口総合整備促進協議会)

協議会組織 (平成17年10月現在)

役員	会 長	田中義道(大草校区総代)
	副会長	高橋昭好(東部校区総代)、横田克彦(神戸校区総代)、古橋一毅(六連校区総代)
委員	市議会議員	伊与田知養、川口治吉、大羽 敏、河辺正男、彦坂雄三、富田秀穂、多田辰郎
	漁業関係者	中嶋 徹(神戸漁業協同組合)、大河豊志(六連漁業協同組合長)
	市農業委員	安田和司、水谷正幸、富田政彦、西山好孝
	市役所関係者	菰田稀一(助役)、瓜生堅吉(教育長)、林 勇夫(建設部長)、金田信芳(都市整備部長)、彦坂善弘(経済部長)
顧問	白井孝市(田原市長)、鈴木 愿(愛知県議会議員)、伊藤欣夫(JA愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)	
事務局	田原市役所総務部(企画課)、山田憲一(総務部長)	

表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての動き

(平成10年3月策定の海浜・崖森エリアの基本計画)

ハード事業

海岸整備(県事業)

海岸保全事業(傾斜護岸): 大草海岸

海岸治山事業: 六連地内

拠点地区の整備促進(市事業)

公衆便所整備事業: 谷ノ口海岸(H9整備済)

大草海岸(H10整備済)、百々海岸(H11整備済)、東ヶ谷海岸(H13整備済)

海岸駐車場事業: 大草海岸駐車場(H11整備済)、百々海岸(H12整備済)

道路整備事業: 南谷ノ口1号線道路改良(H15)、本郷上り口線道路拡幅(H16~)、高畑谷ノ口線道路改良(H17)

谷ノ口海岸線道路拡幅(H17~)

(愛知県の動き)表浜海岸における離岸堤の整備推進について

愛知県と静岡県は、遠州灘を広域的な視点で捉え「防護」に「環境」「利用」を加えた海岸づくりを目指す「遠州灘沿岸海岸保全基本計画」を共同で策定(H15.7)しました。平成17年度からは、この計画に基づき離岸堤の整備に向けた海岸測量業務が行われることになり、海浜及び護岸の状況などを考慮して緊急度の高い海岸で調査が行われます。

多額な費用を要する海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的な価値の創造や活用を展開し、必然的な投資効果の向上を図る必要があります。

ソフト事業

表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

メイン会場: H10 谷ノ口海岸、H11 大草海岸、H12 百々海岸、H13 東ヶ谷海岸、H14 大草海岸、H15 百々海岸、H16 分散開催(大草海岸~久美原海岸)

表浜のレクリエーション

健康ウォーキング大会(市教育委員会): H10 東ヶ谷海岸、H11 大草海岸、H14 谷ノ口海岸、H15 大草海岸

ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成): H13 六連海岸

農地エリアの整備 実現に向けての動き

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

ソフト事業

農地基盤に関する実態調査(市事業)

農地基盤再整備に関する調査: H11 表浜全域

谷熊新田排水対策計画調査: H17・18年度計画調整

ハード事業

農村・農地の整備(市事業)

農村総合整備事業: H18年度事業予定(大草・高松地区)

きれいな表浜を守りたい

田中 弥市氏(大草町・左官業)

田中さんは、誰からも愛される表浜海岸(大草海岸)を守るため、平成7年頃から自主的にゴミ拾いの活動が続けられている方です。

朝5時から6時までの間、市内外から来訪するサーファーや家族連れで賑わう海岸環境を維持し、誰でも気持ち良く利用できる海岸を目指して活動されています。



自ら考え・行動する地域づくりの活動紹介

谷ノ口総合整備促進協議会では、地区内の諸問題を検討し、地域の活性化を目指す地域づくり運動の一環として「ええぞんマーケット」を、毎週日曜日、午前9時から正午まで谷ノ口公民館横にて開設しています。

このマーケットは、平成16年11月から始まり、約1年間、定期的な開設を続けてきました。この展開には、自ら考え・自ら行動する、そして身の丈にあった活動を区民一丸で取り組む上に成り立ち、牽引する者たちの意志や目標が明確であれば、持続的な活動が展開できるという見本を見せていただいています。

皆さんも、この活動をぜひ応援いただきたいと思います。



平成17年度の事業計画

主催事業

第8回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 平成17年11月20日(日)AM9:00~PM1:00

悪天候の場合は11月26日(土)に延期

場所 表浜一帯(メイン会場は大草海岸)

内容 清掃活動、レクリエーション、地引網(予定)ほか

目的 表浜の良さ、侵食等の現状を広く知らしめ海岸整備の促進を図る。

推進事業

- ・農村総合整備事業・新規採択申請書策定調査
〔大草・高松地区〕: 田原市経済部農政課
- ・海岸治山事業〔六連町東海岸・谷ノ口海岸ほか〕:
愛知県東三河農林水産事務所
- ・海岸保全施設の整備: 愛知県東三河建設事務所
- ・海岸進入道路、地区内道路改良の整備〔谷ノ口地区〕:
田原市建設部土木課
- ・谷ノ口地区整備基本計画〔谷ノ口地区〕:
田原市経済部商工観光課
- ・沿道花壇の整備〔谷ノ口地区〕:
田原市都市整備部公園緑地課

第7回表浜自然ふれあいフェスティバル

H17
1.16/1.23
開催

海岸侵食が進む表浜の現状と自然の魅力をPRするために始め、7回目を迎えたこのイベント。今回のイベントは、平成16年10月に来襲した台風の影響で止む無く日程を延期し、各海岸で分散して開催しました。寒風の中、約500人が参加し、久美原~大草までの各海岸で清掃活動を行いました。



表浜情報誌「潮騒」や「協議会事業」に関するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

発行(事務局): 〒441 3492 愛知県田原市田原町南番場30 1 TEL0531 23 3507 田原市太平洋岸総合整備促進協議会(田原市役所企画課内)